

2019年度 第1回香川地域継続首長会議 報告

- ◆ 日 程：2019年5月28日
- ◆ 開催地：マリnpalesさぬき2階大広間(高松市)
- ◆ 活動形態：主催
- ◆ 参加者：33名【内閣府、香川地域継続首長会議委員(香川県内の市町長、四国地方整備局、四国経済産業局、香川県、香川大学)他】
- ◆ 次 第：
 - 1.会長挨拶 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
危機管理先端教育研究センター長 白木 渡
 - 2.挨拶 香川県知事 浜田 恵造 氏
 - 3.講 演 内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(調査・企画担当)付
企画官 古市 秀徳 氏
演題：「避難勧告等に関するガイドライン」改定について
 - 4.議 事
 - (1) 報告1 香川県地域継続検討協議会の活動内容について
 - (2) 報告2 水害に強いまちづくり検討会について
 - (3) 報告3 市町BCP作成支援事業について
 - (4) 報告4 南海トラフ地震に関する臨時情報について
 - (5) 各首長による意見交換
意見交換テーマ：市町の国土強靱化地域計画の策定について
 - 5.閉会挨拶 香川大学副学長
香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
機構長 吉田 秀典

◆ 概 要：

昨年は大阪府北部地震をはじめ北海道胆振東部地震や西日本豪雨による災害が発生し、多大な人的・物的被害が生じました。四国・香川においては南海トラフ地震の30年以内の発生確率は70-80%と高まっています。また、地球温暖化の影響による記録的な大雨により大規模な水害や土砂災害の発生も懸念されています。今後発生が予想される様々な災害に備えるためには、香川県下17市町が連携して香川県の地域継続に取り組んで頂く必要があると考え、平成25年度に「香川地域継続首長会議」設置し、毎年会議を開催しております。6年目となる令和元年は5月28日マリnpalesさぬきにて開催いたしました。

はじめに香川大学、白木危機管理先端教育研究センター長よりご挨拶、続いて、浜田県知事よりご挨拶頂きました。

引き続き、内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(調査・企画担当)付企画官 古市秀徳氏より「避難勧告等に関するガイドライン」改定について、ご講演頂きました。ガイドラインは平成31年3月に改定、6月に運用開始となります。住民が主体的に避難行動をとれるよう、5段階の警戒レベルによる分かりやすい防災情報の提供について追記されたとの事で、警戒レベルの運用等について、詳しくご説明頂きました。

また、防災と福祉の連携による高齢者の避難行動に対する理解促進、学校における防災教育、避難訓練、地域防災リーダーの育成についても、内容の追加・充実が図られました。

続いて、四国地方整備局の新体制について、野本統括防災官よりご説明頂きました。

香川大学、藤澤地域強靱化研究副センター長からは、香川地域継続検討協議会の活動内容、水害に強いまちづくり検討会、市町BCP作成支援事業、南海トラフ地震に関する臨時情報の4つのテーマの進捗状況について、ご報告させて頂きました。

各首長からは「市町の国土強靱化地域計画の策定について」をテーマに、ご意見を頂きました。国土強靱化地域計画の策定については、その重要性について十分理解しているものの、策定に関するノウハウや人員の不足、関連する他の計画と整合性を保つ必要がある事等、課題もあるというご意見を頂きました。

一方で、職員に対する防災・危機管理スペシャリスト養成研修の実施や、子どもの防災検定の実施といった、各市町における先駆的な人材育成の取組みをご紹介頂きました。

これらの人材育成の取組みは、職員や住民の防災意識を醸成し、長期的な地域全体の防災力の向上につながるとして、参加者の関心を集めていました。

また、自由意見として、AI(人工知能)を活用し、災害発生時に氾濫する情報を整理することはできないか、という問題提起がなされ、災害シミュレーションへの応用等、防災分野でのAIの活用について活発な議論が交わされました。

最後に香川大学、吉田機構長より、防災方面でのAI活用、罹災証明発行の判定にドローン撮影の画像を利用する研究等の紹介をもって、閉会の挨拶とさせて頂きました。

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、今後も引き続き話題提供に努め、防災対応の検討を支援させて頂きたい、と考えております。本会議で地域継続力の向上を図ると共に、四国の緊急災害対策拠点としての機能を発揮することを目指し、香川県の強靱化に取り組んで参ります。



挨拶：香川県 浜田知事



講演：内閣府政策統括官(防災担当)付参事官
(調査・企画担当)付 古市 企画官



首長会議の様子



各首長による意見交換

以上